



2021年12月17日

各位

## 中外製薬の環境対策、2部門で CDP の最高評価 A を果たすとともに、 温室効果ガス削減目標で SBT 認定を取得

中外製薬株式会社（本社：東京、代表取締役社長 CEO：奥田 修）は、国際環境非営利団体 CDP より、環境対策における先進企業として、気候変動対策と水セキュリティ対策の二部門において最高評価に相当するAリストに選定されるとともに、中期環境目標 2030 で掲げる温室効果ガス削減目標が、パリ協定に整合する水準として、Science Based Targets (SBT) 事務局より SBT 認定を取得いたしましたので、お知らせいたします。

CDP は 2000 年に発足した英国の非政府組織（NGO）です。世界の主要企業に対し質問書を送付し、環境問題への取り組みに関する情報公開を求めそれを評価することで、グローバルな環境課題に関するエンゲージメント（働きかけ）を行っています。中外製薬は 2012 年から参加し、前年度（2020 年度）は気候変動および水セキュリティのそれぞれについて A、B の評価を取得していました。2020 年には TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）の提言に対する賛同を表明するとともに、科学に基づく新たな中期環境目標設定に向け、重要課題（マテリアリティ）の特定を行いました。今回の結果は、こうした継続的な取り組みと情報開示の姿勢が評価されたものと考えています。

SBT は、CDP、国連グローバルコンパクト（UNGC）、世界資源研究所（WRI）、世界自然保護基金の 4 社の共同で運営され、事業者自らの排出だけでなく、事業活動に関係するあらゆる排出を合計したサプライチェーン排出量を対象としています。今回認定された温室効果ガス削減目標は、2019 年を基準として、スコープ 1 とスコープ 2 の合計排出量を 2030 年までに 60%削減し、スコープ 3 の排出量を 30%削減するものです\*。より長期的な目標として、2050 年にはスコープ 1 とスコープ 2 の排出ゼロを目指しています。

\*スコープ 1：事業者自らによる温室効果ガスの直接排出（燃料の燃焼、工業プロセス）、スコープ 2：他者から供給された電気、熱、蒸気の使用に伴う間接排出、スコープ 3：スコープ 1、スコープ 2 以外の間接排出（事業者の活動に関連する他者の排出）

中外製薬は、成長戦略「TOP I 2030」において、事業活動を通じた ESG の取り組みが評価され、社会課題解決をリードする企業として「世界のロールモデル」となることを、2030 年に到達すべきトップイノベーター像の一つに挙げています。今後も社会とともに持続的成長をかなえるべく、事業活動のあらゆる場面で環境対策を追求してまいります。

### 【参考】

中外製薬 サステナビリティウェブサイト

<https://www.chugai-pharm.co.jp/sustainability/index.html>

中期環境目標 2030

<https://www.chugai-pharm.co.jp/sustainability/environment/action.html>

以上